

## 「三度目のがん」

2018年09月03日

台湾人(?)の老医師の「洋光台クリニック」が私の行きつけの医院だった。老医師は牧師だったが、牧師は人を救えないと医者になったと言っていた。私が牧師であることを知り、玄関まで来て、「1年に1回は検診を受けなさい。〇〇牧師は検診を受けなかったので、一昨年亡くなった」などと話してくれた。しばらく検診に行かなかった間に、医師は新規に「並木クリニック」を開業された。2007年、体調が少しおかしかったので、私は久しぶりに老医師に検診してもらいたいと出かけると、老医師は亡くなり、娘さんが引き継いでいた。胃カメラ検査を受けると、食道がんがあるとわれ、映像も見せてもらった。多くの人をがんで見送って来たので、私の番が来たのかと思った。「がん」という言葉には、そういう響きがある。女医さんから、東京の「駒込病院」のM女医を訪ねなさいと言われた。遠いので、近くの病院を紹介してくださいと言おうと思ったが、言われた通り、駒込病院のM女医を訪ねた。後で、病院関係の雑誌で、M女医は食道がんの専門医として著名な人であることを知った。2週間くらい、諸々の検査を受け、検査の多さに驚き、苦しい検査もあった。M女医から、「食道がんの外科手術をすると、声を失うことがある。あなたは牧師で声が大事なんでしょう」と言われた。検査結果、手術は内視鏡でできるということになった。M女医は後輩の若いF女医に任せた。F女医はがんの部分を一枚の布切れのようにはがし、取り出してくれた。全身麻酔で、緻密で、根気のいる内視鏡手術で、6時間ほどかかった。がんは深く浸潤してなく、表面が冒されていただけだったようで、お陰で、食道がんは完治した。2013年、検診で初期胃がんが見つかり、F女医の夫の医師が2時間くらいの内視鏡手術で摘出してくれ、これも完治した。内視鏡手術は体に負担が少なく、抗がん剤や放射線治療も受ける必要がなく、幸運であった。ご夫婦に二つのがんを治してもらった訳で、本当に感謝であった。

以来、検診の度にクリアしてきた。二つのがんを克服できたと喜んでいて、ところが、今年、定期検診を受けたところ、CT検査で、右腹部に大きな炎症が起こっていることが分かり、即、検査入院となった。退院したが、MRIの検査を受けに行った日、体調が悪く、また、即、入院となった。そして、10日ほど、諸々の検査を受けた結果、悪性リンパ腫であることが判明した。三度目のがんである。がんは私の体がよほど好きなようだ。

悪性リンパ腫とは、病名からして恐ろしい。理知的なS医師から悪性リンパ腫について、丁寧な説明を受けた。10万人に15人くらいの率で発症する病気で、病名は一つだけ、60以上もの種類があるそうである。多くの症例を経験し、完治できるし、完治を目指して治療する。そのためには、どの種類かを検査し、適する抗がん剤を組み合わせる、副作用への対応も必要であると言われた。抗がん剤治療をお願いした。抗がん剤治療を受けた人の苦労話を見聞きしてきたが、自分が受ける番になった。

私の病気には色々な科の医師が来て、10人以上の医師が関わっている。チームワークで検討しているらしい。悪性リンパ腫の専門医S医師と腫瘍内科のN医師が抗がん剤治療について説明してくれた。インフォームドコンセントは最悪も話すので、いささか恐怖を感じるが、特殊な悪性リンパ腫らしく、体に負担のかかる治療になるとのことである。忍耐するように告げられた。三度目のがんの来訪である。三度目も正直としたい。もう77歳、命長かれとは思わないが、今少し、やりたいことがある。これから、悪性リンパ腫との闘いである。神に快癒を祈りつつ臨みたい。お祈りしていただける方はご加禱ください。